



# 碧南ロータリークラブ週報

第2270回例会 平成17年6月1日(水) 曜.最高27.9℃.最低14.9℃

- 会長 池田 弘孝 ●幹事 黒田 昌司 ●SAA 小笠原良治
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90  
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100  
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>  
E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)
- 会報委員 鶴田光久・杉浦昌裕・石川唯司・竹中 誠



## ● 齊唱

国歌「君が代」  
ロータリーソング「奉仕の理想」



中根佑治副会長

## ● 四つのテストの唱和

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

## ● 本日のお客様

碧南市防災監 油谷悦郎様  
米山奨学生 蔡 於今様



蔡 於今様

## 副会長挨拶

今日は、シカゴでロータリー100周年国際大会が開催されます。参加される方があるとは聞いておりませんが、100年前にアメリカへ行くということは大変な出来事であったことと思います。実は、当時この地方からアメリカ西海岸へ出稼ぎに出掛けた人々がありました。私の親族もその一人で、残された記録によりますと、明治33年（1900年）3月15日渡米者7名が出立しております。サンフランシスコ近辺に既に渡っている人がいて、その人を頼りに蒲郡まで徒歩で行き、そこから鉄道で横浜まで、そして横浜港から定期航路により18日間でサンフランシスコへ着いています。

まず、農園で働き、その後転職したり、また病気をしたり、借金をしたりしながら故郷へも送金を続け、目途のついた人は帰国してお嫁さんを探したり、家族を連れて再渡米したりしています。

明治36年には、平七、伏見屋地区の人々がおよそ7～8名滞在しております。だんだん入国が厳しくなってもメキシコより密入国したりして、その後も渡る人がありました。それらの人々がアメリカの近代化を目のあたりにして生活をしていたわけですが、その後日本に帰った人も地域にとけ込めず、アメリカに残った人々も戦争で大変な苦労をしたと存じます。

あまり故郷では、その事実も埋もれて、残された当時のサンフランシスコやロスアンゼルス、シカゴの写真を見ながら語られることのないのを残念に思っています。

国際交流の一翼を担った人々の存在を忘れてはならないと思って紹介させていただきました。

## 幹事報告

他クラブの例会変更につきましては、お手元の資料をご参照いただきたいと思います。

なお、例会終了後3階の306号室で理事会を開催しますので、理事・役員の方はお集まりいただきますようお願い申し上げます。



黒田昌司幹事

## 委員会報告

総会員数 77名 (内出席免除者 15名) 出席者 68名	
出席対象者 55／62名	出席率 88.71%
欠席者 9名(病欠者 0名)	前々回修正出席率 100%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 長田 昌昇君 燐学生蔡於今（サイヨキン）様をよろしくお願いします。  
木村 克美君 交通安全協会碧南支部支部長の役、無事退任することができました。  
鈴木 並生君 安協総会において木村さんの後任支部長に就任いたしました。よろしくお願いします。  
杉浦 成人君 例会講師油谷悦郎様を紹介させていただきます。  
石橋 嘉彦君 森田先生にお世話になりました。  
早退3件 合計19,000円

### 〈ゴルフ部会〉

先々週にご案内させていただきましたが、3クラブの大会が7月21日にございます。来週までが申し込み期限となっております。ふるってご参加願いたいと思います。

### 〈親睦活動委員会〉

6月会員誕生日

1日長田 和徳君 8日原田 達八君 17日鈴木 敏弘君 29日 亀山 裕一君

6月奥様誕生日

24日杉浦 成人君の奥様 真美様

6月結婚記念日

7日新美 真司君・琢美様 19年 12日神谷 研君・文子様 59年

## 卓

## 話

### 「わが町碧南の地震対策」

碧南市防災監 油谷 悅郎様

ただ今ご紹介をいただきました防災監の油谷です。

ロータリークラブの例会で話をするのは、これで2回目で、前は少年サッカーのことでした。私は、碧南市役所に就職して以来、32年間建築課に勤務し、公共施設の設計、建設にかかわつきました。防災監になってからは、今まで建設してきた建物の構造が地震に耐えられるか、倒壊せずに建っているかどうかを注目することとなり、以前の建築課の時とまったく逆の立場で建物を見ることとなりました。



油谷 悅郎様

今、地震防災のことが騒がれていますが、これは昭和53年に大規模地震対策特別措置法が施行され、地震対策強化地域が指定されたからです。

当時は、愛知県では、新城市だけが地震強化地域に指定されただけです。平成14年4月にこの強化地域指定が追加されたのが96市町村で、合計253の市町村が指定され、この時碧南市も強化地域に指定されました。

平成15年7月、東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法が施行され、東南海・南海地震防災対策推進地域として1都2府18県652市町村が指定されました。当然碧南市もこの中に入っています。阪神・淡路大地震の時も、阪神に地震は起きないと言わっていましたし、福岡西方沖地震も地震の空白地と言われていました。地震にはくれぐれも注意が必要です。

とりわけ、地震による人的被害は、建物の倒壊、家具等の転倒による圧迫死が大部分であり、阪神・淡路大震災で救助された人の95%は、自力又は家族、隣人によって救助され、又は初期消火活動において隣人住民の協力で救助されています。

ところで、大地震が発生した場合、碧南市内の状態がどうなるかが問題です。吉幾三の歌ではないですが、電気もネエ、水道もネエ、テレビもネエ、電話もネエという状態になります。また、碧南市は水に囲まれており、街づくり計画等においては、水を活用した計画案がよく盛り込まれておりますが、災害時においては水は怖いものになります。

さて、碧南市では、災害時の被害の軽減対策として、人的被害は建物の倒壊、家具等の転倒による圧迫死が大部分であることから、建物の耐震化対策として民間木造住宅耐震診断を行っています。

これは、昭和56年以前に建築をされた木造住宅の無料診断で、平成14年度から行っており、国2分の1、県4分の1、市4分の1をそれぞれ負担しています。平成14年度から平成16年度までで820棟実施しました。平成17年度は200棟を予定しています。

診断の結果を見てみると、安全・やや安全が20%で、残り80%が倒壊の危険ありとなっています。

この結果を踏まえて、平成15年度から民間木造住宅耐震改修補助金制度を実施しています。これは、耐震診断の結果、やや危険・倒壊の危険ありと診断された建物を一応安全までに補強する改修費用の補助金で、上限60万円（県30万円・市30万円）を補助するというものです。今までの実績は27件で、平成17年度は15件の予算です。

耐震診断は、平成17年度が最終、耐震改修補助は平成18年度が最終年度となっていますが、碧南市としては国・県の補助金が終了しても、今後も継続していきたいと考えています。

次に、公共建物の耐震補強工事について説明します。

平成17年度には、大浜保育園・築山保育園・日進小学校・鷺塚小学校・東中学校・水族館を行ってまいります。また、西端小学校校舎・大浜小学校体育館耐震改修のため建て替えを予定しています。

家具等の転倒防止対策として、碧南市では、①高齢者等世帯に家具転倒防止金具5個までの無料設置、②保育園、幼稚園、小学校、中学校の家具等の転倒防止金具設置を平成17年度に行います。また、人的被害低減・初動体制確保のため、家具等の転倒防止金具設置の啓蒙を図る観点から、平成17年度に転倒防止金具の全戸配布を行います。

道路等の耐震対策としては、災害時に住民の避難、消防、医療活動、緊急物資の輸送活動のため、緊急輸送道路等の確保が重要となります。

現在碧南市の管理する橋長15mの橋は17橋ありますが、新基準で施工2橋、橋の架け替え予定2橋、地震対策落橋防止工事済み2橋、未施工11橋であります。未施工の橋については、平成17年度4橋、平成18年度4橋、平成19年度3橋を順次施工してまいります。

津波対策としては、津波警報が発令された場合、早期に避難していただく情報を提供するため、海岸沿い・矢作川沿い・観川沿い・新川・高浜川・油ヶ淵に合計20箇所に情報無線を平成17年度に設置いたします。なお、平成16年度に東海地震・東南海地震の地震動、液状化危険度調査をし、地震動・液状化危険度マップを作成して、本年4月に全戸配布しております。

次に、防災備蓄倉庫について説明します。

平成15年度に市内20ヶ所に防災備蓄倉庫を設置しましたが、地区により偏りがありました。そこで、平成17年度において、1防災備蓄倉庫あたりおおむね1000世帯をとするため、4ヶ所増設します。

自主防災組織について説明します。

地震等の大規模災害時には、ライフラインが寸断され、常備消防等の防災関係機関の活動に支障を来たすため、公共機関による支援・救出・救護等は期待できることになります。

このような状況時には、地域住民一人ひとりが「自分の街は自分たちで守る」という連帯意識のもとに、組織的に出火防止・初期消火・情報収集・避難誘導・被災者救出・救護・応急手当・給食・給水等自主的な防災活動が不可欠になってまいります。

そのため、平成17年度より自主防災モデル地区を指定して、地区の方々とともに自主防災活動の促進を図ってまいります。モデル地区として毎年3地区を考えております。

また、平成17年度より市内小中学校に「親子で学ぶ地震防災教育」を実施していただき、生徒・保護者・地区住民・消防団等と連携を図って、地震防災教育としていろいろな行事を実践していただきます。今後も継続してまいります。

以上ご説明しましたが、これら地震等防災予算として、平成17年度は約18億円となります。

最後に、本日防災関係資料を配布しましたので参考にしていただきたいと思います。

次回例会案内 平成17年6月15日（水）

卓話「反省」 会長 池田弘孝君